

午後8時。3人の娘——乳母車に幼児を乗せたイーディ・ボードマン、双子の弟（4歳）を連れてシシー・キャフリー、そして本挿話前半の中心人物ガーティ・マクダウェル——が、第3挿話でスティーヴンが歩いた「サンディマウント海岸」にやっ



サンディマウント海岸（撮影 2014年8月）

来ている。イーディとシシーが子どもたちの相手をする中、「じっと遠くのほうをみつめながら物思いにふけているガーティ・マクダウェルは、たしかに、魅力的なアイルランド娘のなかでも稀に見る典型的な美少女でした」（U-△ 13.409-10）と紹介される（ただし、本挿話前半部の語りは彼女の意識に寄り添った、ハーレークイーン的文体であることに注意）。「ガーティの目はこの上なく青いアイリッシュ・ブルー」や「今日ブルーの下着をはいたの万一の幸運を願ったからで、ブルーは彼女自身の色でしかも幸運の色」などの表現は、この海岸のそばにある教会が聖母を称えた、「メアリー、海の星(Mary, Star of the Sea)」という名であることと関連する（伝統的にマリアのシンボル・カラーは「青」）。ガーティは、友人たちの会話には加わらず、恋人のレジュー・ワイリー（プロテスタントの、年下の男の子）や、ファッション（主として「下着」、とりわけ「透明なストッキング」のこと）、そして家族（祖父の飼い犬「ギャリーオーウェン」や、酒癖の悪い暴力的な父親のこと）を考える。キャフリー兄弟が遊ぶボール¹が、岩に腰掛けていた「喪服の紳士」（ブルーム）の前に転がってゆくと、彼はそれを投げ返すが、シシーのほうではなく、「ガーティのスカートの真下、岩のそばの小さな水溜まりの縁に止」る。彼女は一度目こそボールを蹴りそこなうが、二度目はスカートを少しだけ上げて蹴り、双子に返してあげる。教会から聖母マリアの連禱が聞こえてくると、ガーティはブルームの視線を感じる。「彼女の胸は高鳴りはじめました。そうよ、あの紳士はたしかにあたしを見てらっしゃるのよ、それにあの意味ありげなまなざし。炎のようなあの目があたしを刺しつらぬき、心の隅々まで侵入して魂の秘密を読みとろうとするみたい」（U-△ 13.430）と考え、この紳士こそが自分の「夢に描いた夫 (dreamhusband; U 13.431)」に違いないと想像を膨らませる。

一行が帰り支度を終えるころ、ちょうど教会の聖体降福式も終わりを迎える。すると、マイラス慈善市の花火が南西の方向に上がる。他の者たちがよりよく見える場所に駆けてゆくのに対し、ガーティは座った場所から全く動かず、「思いきりそり返って花火を眺めながらうしろに倒れないように両手で片膝をかかえ、彼と彼女のほかに誰ひとり見ているひとのいない今こそ形のいい優美な両脚(all her graceful beautifully shaped legs)をすっかりあらわに」する(U-△ 13.447)。手淫を行うブルームが露骨に見つめるその視線を感じながら、ガーティは「若い女性の愛の叫び」が今にも胸から飛び出しそうになる。ふたりの性的興奮は、轟音を響かせて爆発するローマ花火を見つめる他の者たちの「おお！(O!)」という叫びに溶け合ってゆく。

¹ この部分は、『オデュッセイア』第6歌で、王女ナウシカアが「女中の一人をめぐり投じた毬が、狙いが外れてその女中に渡らず、深い流れの渦に落ち」、それに対し女たちが叫び声を上げたため、河岸で休んでいたオデュッセウスの眠りを覚ますことに対応する（松平千秋訳、岩波文庫、157-58頁）。

やがて立ち上がったガーティが、シシーたちのほうへ「非常にゆっくり歩いてい」くのを見たブルームは、「靴がきつすぎるのか？ いや。足が悪いんだ！ おお！」と思う（ここから彼の意識に寄り添った後半の文体に変わる）。彼は月経のことを考え、ガーティはなぜ自分を気に入ったのだろうと疑問に思う。そして「四時半」で止まっていた時計を見て、ちょうどその時刻にボイランとモリーが交わっていたことを想像しながら——「おお、彼がやった。彼女のなかへ。彼女がやった。終れり」(U-△ 13.457)——射精をする。

「濡れたシャツを丹念にととのえ直した」ブルームは、「おれがやってたことに彼女は気づいたか？ もちろんさ」と思い、一度だけ振り返ったガーティに対し、心の中で「お嬢さん、おれは見たよ、あんたの。何もかも見たよ」と心の中で呟く(U-△ 13.457-62)。月経からの連想でマーサやモリー、ミリーについて考え、ガーティが残した香水の残り香から匂いについて考え

していると、静まり返った「ハウスの丘」(第8挿話で見たように、ブルームがモリーにプロポーズをした場所)を眺めながら、モリーと出会ったときのことを思い出す。最後の花火が上がり、まもなく9時になることを察したブルームは、まだ家には帰らず、ピュアフォイ夫人の見舞いに行こうと考えるものの、一日の疲れからなかなか動くことができない。紙幣のように見える紙切れを拾い、裏返すが読めず(「手紙か？(Letter?) いや。読めない。)、次に棒切れを拾い、ガーティにメッセージを書こうとするも、「私は(I)」「ひとりの(AM. A.)」²と書いたところ



ハウス岬 (2019年7月撮影)

ろでそれらの文字(letters)をブーツでゆっくりと消し、しばらくモリーとボイランの関係には目をつぶろうと考えながら、実際にわずかの時間目をつぶる(“Let him. Just close my eyes a moment.” (U 13.1276-77))³。すると、「海の星」教会に隣接する司祭館の置時計が9時を告げるため「クッカー(Cuckoo)」と9回鳴く。ちょうどその頃、ガーティは「偶然」にも(さすがに司祭館からその鳩時計の音が聞こえるとは考えにくい)、「岩に腰かけてこちらを見ているあの外国の紳士」は〈寝取られ夫(cuckold)〉であると見抜く。

² ここでは集英社訳に従ったが、「私は孤独だ(“I AM ALONE”)」の可能性も指摘されている。

³ 熟語の close one's eyes は日本語の「目をつぶる」と同様、「～をわざと見ない」「～を無視する」の意。